

広島県病院経営外部評価委員会（令和2年度第4回）議事要旨

- 1 日 時 令和3年3月24日（水） 午後2時から4時まで
- 2 開催方法 オンライン
- 3 出席委員 谷田委員長，大毛副委員長，木倉委員，中西委員，平谷委員，吉村委員，和田委員
- 4 議 題 第6次広島県病院事業経営計画（期間延長版）（最終案）について
第4回安芸津病院耐震化対応検討専門部会について
- 5 担当部署 広島県病院事業局県立病院課調整グループ
TEL（082）513-3235（ダイヤルイン）

6 会議の内容

事務局から、配付資料について説明が行われた後に、第6次広島県病院事業経営計画（期間延長版）（最終案）及び第4回安芸津病院耐震化対応検討専門部会に関する協議・質疑等が行われた。概要は、以下のとおりである。

【質疑応答及び意見】

(1) 第6次広島県病院事業経営計画（期間延長版）（最終案）について（資料2）

事務局から第6次広島県病院経営外部評価委員会（期間延長版）（最終案）の概要について説明を行い、その後、委員による質疑等を行った。

（広島病院に関する質疑等）

委員：収支計画中の令和2年度決算見込みについて、国からのコロナ補助金は計上されているのか。

事務局：令和2年度決算見込み及び令和3年度当初予算においては、主に医業外収益に国からのコロナ補助金を計上している。

委員：収支計画のページに今年度と来年度の患者数の記載があるが、現状と来年度の見込みについてお聞きしたい。

院長：外来患者数については未だ新型コロナ流行前の水準には戻っていない。入院患者数については、新型コロナに対応する当院の病床を県の方針でどのように取り扱うのか次第であると考えている。

委員：患者数が減少傾向にあり、これは新型コロナの影響だけではないと思うが、その点はどう考えているのか。

広島病院長：患者数の減少に拍車をかけたのは新型コロナであるが、例えばこれまでは入院して対応していた手術が日帰りで可能になったり、在院日数を短縮してきていることが、延患者数減少の要因であると考えている。本院としては、むしろ新規入院患者数を重視すべきと考えている。

副委員長：高額抗がん剤の使用などで費用が増加していることは、大学病院でも同様である。一方、新型コロナによる患者数の減少や新型コロナ患者の受入を行っている中においても、黒字の見込みであることは評価できる。

委員：目標指標の「③①医師・看護師等の講師派遣回数」については、実績を踏まえて300回以上を目標とすることはできないのか。

広島病院長：新型コロナの影響により、オンラインでの開催や集まった研修会等が減少していることから、派遣回数はこれまでと同等というのは難しいと考えている。

委員：医療法の改正が成立すると5疾病5事業が感染症対策を加えて5疾病6事業になる。同時に、地域医療構想の推進では、100万人以上の都市圏の公的病院の議論も始まっている。これらを踏まえて、県立病院の経営についても、広島都市圏域の基幹病院間の役割分担と連携をより具体的に進めてほしい。

委員：公立・公的・民間（病院）の連携は、医師会や病院協会を含めて体制づくりが重要であり、一体的な取組が必要である。

委員：コロナ禍においても県内の医療機関で診療が受けられないという不安はなかった。逆に言えば、医療従事者の負担は如何ばかりであったかとも思う。

病院事業管理者：今年度、県にコロナ調整本部を設置し、各病院の協力を得ながら、広域的な患者対応を行うことができたので、役割分担や連携の重要性を改めて確認したところである。各病院には非常に感謝している。

(その他)

委員：目標指標や目標数値については、医師等の医療従事者との共有はできているのか。

広島病院長：目標指標や目標数値については、各副院長の意見も聞いた上で定めたものである。

委員：経営計画については、診療科を含む病院全体で認識しておかなければ形だけの計画になってしまうので、職員が一丸となって目標を達成するためにも院内での情報共有をしっかりと行っていたらきたい。また、重点指標については、毎月モニタリングするなどしっかりと管理していただきたい。

委員長：他県の公立病院では、公立病院としての能力を維持するためのコストについても税金を投入すべきであるという考え方の下、サステナブル（能力維持）コストとアクティビティ（通常）コストを切り分けて考える取組を始めているので、その取組状況もみながら、広島県でも同様の取組を行っていただきたい。

委員長：最終案1ページの「1 計画策定の経緯及び目的」において、少子化などによる人口減少に伴う患者数の減少とあるが、それよりも、地域医療水準の向上による疾病コントロールの進展や、全体のシェア獲得という側面もあるのだから、高度急性期病院との競合という側面に触れた方がよいのではないか。

(2) 第4回安芸津病院耐震化対応検討専門部会について（資料3）

事務局から第4回安芸津病院耐震化対応検討専門部会の概要について説明を行い、その後、委員による質疑等を行った。

委員長：第4回専門部会の意見の中で、地理的に難しいとの意見があるが、具体的にどのようなことを指しているのか。

安芸津病院長：安芸津病院は東広島市にあり、二次医療圏は広島中央医療圏に属しているが、地理的には竹原市との関係が深く、また、県内唯一の完全離島の自治体である大崎上島町にも近いということから、患者の多くは安芸津町、竹原市、大崎上島町に偏っていること、また、東広島市中心部からの患者は距離的な問題でほとんどいないが、東広島地区の外科系空白日は救急機能を担っていることなど、他の病院とは異なる地理的な条件を有している。

委員：耐震化対応にあたっては、住民の安心が確保できるような進め方をしていただきたい。

委員長：地域住民は病床削減については敏感に反応すると思うので、不安を拭うのは難しいと思うが、機能強化面も含めてフェアな説明をお願いしたい。

病院事業管理者：中山間地域の医療をどのように守っていくかは難しい問題であるが非常に大事なことであり、安芸津病院は中山間地域のモデル病院であると思っている。耐震化対応は住民のためにも必要なものであり、そのためには住民の理解が広く得られる仕組みとすることが重要であると考えている。

委員：他県では、病院統合の際の住民説明にケーブルテレビを活用して広く周知するよう努めた事例があるので参考にしているかどうか。また、基本構想の策定にあたっては、外部コンサル等の専門家の知見を活用すべきである。

事務局：基本構想の策定にあたっては、外部コンサルにも協力いただく予定である。

7 会議の資料名一覧

資料1 会議次第

資料2 第6次広島県病院事業経営計画（期間延長版）（最終案）

資料3 第4回安芸津病院耐震化対応検討専門部会について